

| | | | |
|---|--------------|------|------------------|
| 科目名 | 発達障害教育支援方法特論 | 担当教員 | 阿部 利彦 |
| 科目属性 | 専門科目 C | 単位数 | 2 単位 (面接 0.5 単位) |
| 【授業の目的・ねらい】 | | | |
| 【授業概要】 | | | |
| <p>子どもの多様性を重視し、インクルーシブな学びの場を作るためには、特別支援教育、教育相談、生徒指導の枠を超えた教員間の連携、各専門機関との連携、保護者や家族との協力体制が必要となる。その連携を土台に学校生活の中でこまり感がある児童・生徒を支えるための様々なアプローチを学び、子どもたちの力を引き出す、自立に向けた支援をライフステージを見据えて検討する。</p> | | | |
| 【授業の到達目標】 | | | |
| <p>この授業の具体的な到達目標は、以下の3つである。</p> <p>1 多様性を重視した学びの場づくりのためのポイントを理解する</p> <p>2 子どものこまり感に合わせた様々な支援方法を理解する</p> <p>3 子どもと家族を支えるための連携のあり方を理解する</p> | | | |
| 【授業計画】 | | | |
| <p>全 15 回の授業計画は以下のとおりである</p> <p>第 1 回 特別支援教育と教育相談・生徒指導をつなぐ連携のあり方</p> <p>第 2 回 感覚統合の視点で子どもの「つまずき」をとらえる</p> <p>第 3 回 授業のユニバーサルデザインからインクルーシブデザインへの転換</p> <p>第 4 回 発達心理学と発達支援</p> <p>第 5 回 発達障害のある成人の支援</p> <p>第 6 回 思春期・青年期の支援</p> <p>第 7 回 保護者・家族への支援</p> <p>第 8 回 通級指導教室で行う支援～アセスメントから教材づくりまで</p> <p>第 9 回 通常学級における学級経営と集団指導</p> <p>第 10 回 保育現場でのアセスメントと支援</p> <p>第 11 回 子どもと家族の関係を調整する支援</p> <p>第 12 回 個別の支援と学級支援の実践</p> <p>第 13 回 合理的配慮と基礎的環境整備の実践</p> <p>第 14 回 教員間の理解を深める取り組み</p> <p>第 15 回 ライフステージを見据えたかかわりとは</p> <p>科目修得試験</p> | | | |
| 【評価方法】 | | | |
| <p>評価については、スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合しての評価となる。</p> | | | |
| 【教科書】 | | | |
| <p>阿部利彦. (2017). クラスで気になる子の支援ズバツと解決ファイルV 3 対談編, 金子書房.</p> | | | |
| 【参考図書】 | | | |
| <p>阿部利彦. (2009). クラスで気になる子の支援ズバツと解決ファイル, 金子書房.</p> <p>阿部利彦. (2012). クラスで気になる子の支援ズバツと解決ファイル NEXT LEVEL, 金子書房.</p> <p>文部科学省 (2017) 『特別支援学校幼稚部教育要領 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』</p> | | | |